

武蔵野市民文化会館改修に伴う基本設計について

武蔵野市民文化会館の改修にあたり、昨年 9 月より基本設計を行ってきたが、延べ 9 回にわたる設計協議を経て、次のとおりまとまったので報告する。

1 この間の経過

- 平成 26 年 12 月 9 日：総務委員会行政報告
- 12 月 17 日：第 7 回基本設計協議
- 平成 27 年 1 月 5 日：第 8 回基本設計協議
- 1 月 19 日：新国立劇場視察
- 1 月 20 日：第 9 回基本設計協議
- 1 月 30 日：基本設計とりまとめ

2 基本設計のポイントについて

- (1) 【劣化改修①】これまで 30 年間の公演を支えてきた舞台特殊設備（舞台機構・照明・音響）を最新の仕様で更新する。(1,043,900 千円)
- (2) 【劣化改修②】中央管理機器・空調設備機器などの電気設備・機械設備を最新の仕様で更新し、今後 30 年間、市民文化会館の基盤を支える。(818,100 千円)
- (3) 【文化施設機能性】
 - ①大小ホールの客席を改修し、座席幅を拡張し快適性を向上させる。(219,600 千円)
 - ②舞台機構、展示室のパネル及び練習室等の防音対策を行うことで、大小ホールへの防音対策を強化する。(153,900 千円)
 - ③大ホール等を除き、空調システムの個別化を行い、快適性の向上を図る。(305,400 千円)
 - ④利用者がアクセスしやすいように会館事務室を改修し、OA床化を図る。(12,100 千円)
- (4) 【安全性】大小ホール・エントランスの大空間天井の耐震性強化のため、吊り天井から直天井等へと改修し、抜本的対策を講じる。(310,500 千円)
- (5) 【利便性・バリアフリー】
 - ①トイレを全面改修し、増設、温便座の設置等により利便性を向上させるとともに、ランニングコストの低減を図る。(314,800 千円)
 - ②大ホールホワイエ（2 階）から 4 階へ移動するためのエレベーター、正面玄関にはエスカレーターを設置し、バリアフリー化を図り、利便性を向上させる。(158,800 千円)
- (6) 【公共性】エネルギー利用の効率化のため、照明の LED 化を進め、さらにコージェネレーションを導入し停電時発電機能を付加することで、災害時には隣接する第一中学校体育館への電力供給を可能とさせる。(419,200 千円)
- (7) 【耐震改修】建物は新耐震基準に適合しているが、災害時等の役割を考慮して、耐震性をより強化する。(68,800 千円)

